

(45) 茨城県の河川名および道路愛称名にみる地域環境情報

A Study on Meanings and sources of River names and Road names in Ibaraki Prefecture

小柳 武和* 山形 耕一** 志摩 邦雄*** 笹谷 康之**** 横山 隆裕*****

by Takekazu Koyanagi*, Koichi Yamagata**, Kunio Shima***,
Yasuyuki Sasatani**** and Takahiro Yokoyama*****

Abstract- The aim of this paper is to make clear the meaning of river names and road names, and to introduce the importance of their names as an information of the regional environment.

We selected 110 rivers and 150 roads in Ibaraki Prefecture and classified their names by the comparative method with "koaza" - a small place name -.

As a result We understood their names have a close relationship to the regional characteristics of the geography, social and industrial activities and landmarks.

1. はじめに

近年、道路や河川を地域住民にとって親しみのある個性的な空間に再生しようという試みが行われている。長い間住民に親しまれてきた道路や河川の呼称を見直し再生しようといった試みもその一つである。

道路や河川の名称と深く関連すると思われる小字地名に関する研究はかなり進んでおり、その集大成として、楠原佑介・溝手理太郎¹⁾による「地名用語語源辞典」や角川書店²⁾の「角川日本地名大辞典」がある。また、松崎岩夫³⁾や都丸十九一⁴⁾・⁵⁾による長野県や群馬県の小字の事例調査がある。

道路名に関しては、B. ルドフスキー⁶⁾の「人間のための街路」や篠原修⁷⁾の「比較街路学研究」があるが、これらは街路の一般名称に関するものである。また、江戸・東京の坂に関しては、石川⁸⁾、横関⁹⁾・¹⁰⁾、岡崎¹¹⁾、俵¹²⁾等が事例的研究を行っている。河川名に関しても、村石利夫¹³⁾の「日本全河川ルート大辞典」や長野県の事例調査をした小穴¹⁴⁾の報告があるが、地域環境との関連性の分析を主目的にしたものは見受け

られない。

笹谷ら¹⁵⁾は、茨城県北部の小字は、「小字の増減・改変がほとんど行われておらず、……近世以前の環境条件や歴史的経過を十分に反映した良質の資料である。」とし、21,500の小字と、江戸の坂名、藤沢の道名、東信・北信の水路名を分析している。また、笹谷¹⁶⁾は、日本の街路には名称がないとされてきたが、地域の人々の間で使われてきた呼び名が多数あり、道の名称と地域との深い関係性が存在することを指摘している。

これら従来の研究において、小字の語彙には、場所の認識や位置の関係性等地域の環境が端的に表現されていることが指摘されてきた。しかし、道路名や河川名と地域環境や空間認識との関係性についての分析的研究は少なく、その緒についたばかりである。

道路は、人の移動を主目的とする線状の人工構築物であり、その利用者にとっては、場所や方向の認識が重要である。また、河川は、道路と同じく線状の空間で、流水の容態や生態、上流・下流の位置関係に関わる地域認識が重要といえる。つまり、道路や河川においても、小字に示された空間認識、地域認識と同様の認識がなされ、それがそれらの名称に表現されていると推測される。それら線状の空間において、その環境の特徴、固有性を何の手がかりに見だし共通の認識

* 正会員 茨城大学工学部都市システム工学科助教授

** 正会員 茨城大学工学部都市システム工学科教授

*** 正会員 茨城大学工学部都市システム工学科助手

**** 正会員 ㈱地域開発研究所

***** 正会員 ㈱鹿島建設

としてきたかを、名称の語源を分析することにより把握できれば、道路や河川空間の個性づくり、イメージづくりにおいてなにを活用し保全すべきかを検討する際の有用な資料となる。

そこで本研究では、河川名や道路愛称名の語源と小字の語源に、共通性とそれぞれの固有性が見いだせるのではないかと考え、既に分析が進んだ茨城県北部の小字と比較分析するため、茨城県内の道路と河川を取り上げた。そして、それらの名称を分類し、小字、道路愛称名および河川名に共通の語源と固有の語源を抽出し、河川名と道路愛称名に表現される地域環境について考察することを試みた。

本研究の目的を整理すると、以下の3点になる。

- (1) 茨城県の河川名および道路愛称名の由来を探りそれを分類する。
- (2) それらの分類と既存の小字分類とを比較しその特性を探る。
- (3) 以上の分析を通して、河川名および道路愛称名に地域生活環境のどのような部分が表現されているかを考察する。

2. 研究の方法

本研究では、笹谷ら¹⁵⁾により示された小字名の分類を参考として、道路名、河川名との比較検討を行った。参考とした小字研究は、茨城北部の14市町村を対象としたもので、次章に示す分類指標を提案している。

河川名については、村石利夫の「日本全河川ルーツ大辞典」から茨城県内の110河川を抽出し、それらの名称およびその由来を調べた。

道路愛称名については、1988年に茨城県土木部道路維持課で行った道路愛称名現況調査により見いだされた県内150の道路愛称名を分析対象とした。

3. 河川名および道路愛称名の分類

3.1 小字の分類

地名をその指し示す対象によって大別すれば、場所地名と地物地名に分けられる。人々に認識されている一つの地区単位や行政区画を示している場所地名はさらに区画地名と集落地名に大別できる。不動産登記簿に記載されている小字は、耕地名を主とする区画地名であり、「新編武蔵風土記稿」などに記されている小字は、小集落を示す集落地名である。小字は明治初期

の地租改正の時、役所の土地登記簿の管理の単位として民有地に対しつけられたものである。このため小字には検地の時から用いられてきた従来の地名を呼称としているものが多いが、その領域は分合、変更を伴っているのが通例である。

柳田¹⁷⁾は、「地名はわれわれの生活上の必要にもとづいてできたものであるからには、必ず一つの意味をもち、それらがまた当該土地の事情・性質を、少なくともできた当座には言いあらわしていただろう」と論じている。即ち、地名は我々人間が、ある特定の場所を認識するために付けた識別符号であり、その識別はおもに発音によって行われる。よって地名の語彙素では、読みが最も重要であり、笹谷ら¹⁵⁾の地名分類においては、その次に重要な地名語彙素漢字表記と併せて分析が行われている。そこでは、茨城県北部14市町村(東海村・日立市・十王町・北茨城市・高萩市・里美村・緒川村・御前山村・桂村・那珂湊市・大洗町・潮来町・鹿島町・古河市)を対象に、総数21500個の小字データを用いて、表-1に示すように小地名の語源を20に分類し、その語彙の分有率を求めている。

そして、小字地名には地形、位置に関するものが極めて多く、その次に耕地、信仰に関するものが多いことを示した。このことは人々が、地域環境を地形の形態や方角によって認識しようとしてきたことを意味している。

3.2 河川名の由来と分類

河川というものは田畑を作り飲料水となり、時には

表-1 小地名の分有率 (率の単位: %)

語彙の種類		小字	小名	名山	里山	坂	道	水路
地形語彙	地形	36.4	31.6	9.4	34.5	11.9	11.5	20
	眺望	0.3	0.1	—	0.6	9.8	—	—
	水系	4.2	3.8	—	1.2	2.8	0.5	11
	日照通風	0.6	0.2	—	0.6	4.9	—	2
	表土材料	2.4	3.0	—	4.2	2.1	1.0	—
	植生	1.5	2.0	—	3.0	4.2	1.5	4
社会語彙	動物	—	—	—	3.6	2.1	0.5	1
	城跡	1.2	1.2	—	0.6	—	0.5	1
	交通	2.4	2.0	—	1.2	1.8	2.5	—
	耕地	8.1	6.6	—	2.4	—	0.5	2
	産業	0.1	0.0	—	—	—	3.0	2
	集落	3.9	8.7	12.5	6.5	—	14.0	12
	信仰	5.7	4.2	68.8	15.5	24.2	10.5	11
	忌地	0.0	0.0	—	1.8	13.0	1.0	—
	屋敷名人名	—	—	—	0.6	10.2	5.0	3
	行き先	—	—	—	—	—	25.5	—
補助語	その他	—	—	9.4	—	1.8	5.0	1
	位置	27.5	30.3	—	16.1	2.8	12.0	21
	規模	4.9	5.3	—	7.7	1.8	1.5	2
語	新旧	0.8	1.1	—	—	6.7	4.0	7

水路に関しては概算しているので、小数点以下は求めていない。

交通・運搬手段となって古来から人間の生活には欠かせないものとなっている。そういう河川というものも小字地名と同様、周辺の環境や生活に関連した名前が付けられていると思われる。そこで、茨城県内の110河川について、日本全河川ルート大辞典を参考として、その名前の由来を調べた。その一部をここに紹介する。

「久慈川（くじがわ）」

久慈とはクジリークジラで大魚のことと言われた。久慈理岳も鯨のような恰好をした山のこと

「桜川（さくらがわ）」

サクラは狭倉の意で、狭い谷間を通して流れる川の意。または、両岸に桜並木を持つところからの名

「野田奈川（のだながわ）」

ナは国、集落のこと。野原にできた田によって一つの大きな集落ができ、田を作ることに大きく貢献した川ということ

「八間堀川（はっけんぼりがわ）」

八間の幅に整備された堀

「巴川（ともえがわ）」

川の流れが逆巻くのが巴で、その現象が生じる川

この様な由来をもとに河川名を分類した結果、10項目に分類できた。その結果を表-2に示す。ただし、出現率はいくつか重複するところがあり、総数は110を越えるので、出現率も100%を越える。

その各々についての分類内容は以下のとおりである。土地・集落：河川の流れている地域、集落や流れてくる地域の名前からその河川名が付けられた。

地形：河川の流れている地域の地形や源流地域の地形を読み取って付けられた。

農耕：おもに田を造ったりその田に水を供給する河川。

形態・規模：その河川の特徴。例えば、大きいとか長い、沢が多い、浅いなどの特徴を読み取って名付けられた。

流姿・水音：河川の水質や流れに特徴があるもの。

交通目的：舟を使った渡しなどによるもの。

信仰：宗教的な利用や鍛冶の水として利用されたり、沿川の寺社名を付したもの。

植生：沿川が目だった樹木や草花の名前を付したもの。

位置関係：大きな特徴のある河川や地域との位置関係を、東西南北や横、前、中などに表示したもの。

新旧：新しく開削された河川に付けられたもの。

これらの分類項目の中で、飛び抜けて出現率の高い

ものはないが、人々は河川周辺の地形や地理的特徴それにランドマーク等をとらえて名付けていることがわかる。また、水の利用が不可欠な農耕に関する名称が多いのも特徴である。さらに、流水の様態や水音を表した名称に特徴がある。

表-2 河川名の由来

分類	数・率	河川名
土地集落	193 17.3%	鬼怒、東(西)仁連、花室、稲田、塩子、前沢、花園、東(仲、西)河戸、里、大野、相、中郷、宮田、里根、初原、乙戸
地形(地名)	203 18.2%	小野、七内、小桜、川又、大谷、濁沼、濁沼前、桜(2)、古矢、滝、緒、小田野、久隆、相、諸沢、押、鮎、関根、谷越
農耕	193 17.3%	武田、野田奈、破竹、田、飯沼、田野沢、鎌田、野田、和田、山田、木皿、西田、稲田、園部、東(西)谷田、山田、飯田、塩田
形態規模	183 16.4%	利根、堀割、八間堀、大谷、数沢、枝折、桜、片庭、入四間、浅、大沢、高瀬、大石、桂、大、緒、押、中丸
流姿水音	83 7.3%	糸線、七瀬、巴、藤井、波江、塩田、恋瀬、乙戸
交通目的	93 8.2%	小貝、鯉、渡良瀬、梶無、小船、東連津、動行、多々良場、関根
信仰	143 12.7%	動行、宮戸、清明、阿見、観音、稲田、源氏、竜神、宮田、十王、茂宮、花園、小貝、吉沢
植生	33 2.7%	桜、藤井、菱木
位置関係	183 16.4%	常陸(横)利根川、前、東(西)谷田、江、前沢、東(西)仁連、天の、那珂、濁沼前、西田、大北、東(仲、西)河戸、花貫
新旧	33 2.7%	新利根川、新(2)

3.3 道路愛称名の由来と分類

1988年に茨城県土木部道路維持課で行った道路愛称名現況調査を基に愛称名を見い出した。これは県内88全市町村についてアンケート調査を行って調べられている。回答が寄せられたのは83市町村(回収率94.3%)、そのうち既存の道路愛称名があるのが24市町村(28.9%)、該当無しが59市町村(71.1%)となっており、結果的に、150の道路愛称名が収集されている。

この道路愛称名を、その由来をもとに分類を行った結果、次のような項目に分類された。さらに、その分類結果と各々の分類に属する愛称数の数および出現率を表-3に示す。

目的地：多くの人が住むところを中心に目的地とした地名を道路名として付けられた。

例 水戸街道；普通、水戸街道と言えば、江戸から水戸までの今の国道6号線であるが、この水戸街道は瓜連町を中心として水戸へ至る街道である。この〇〇街道という言い方は古く、江戸時代にあった。

発着地名：中心地がないため道路の始めと終わりの二地点を取り、道路名に付けている。

例 七反里美牧場線；里美村の小字である七反と里美

表-3 道路愛称名の由来

分類	数・率	道路愛称名
地名	目的地 22コ 14.7%	水戸街道、柿岡街道、田村街道、中仙道、結城街道、仲横通り、小山街道、岡見線、宿向線、芝塚線、田ノ沢線、笠石線、笹原線、生田線、寺入線、根岸線、とむね線、戸倉線、湯本線、古輪線、森久保線、伊保竹線、
	発着地名 17コ 11.3%	七反田美牧場線、山口仲田線、小妻宿日光線、小妻塩の草線、小中塩の草線、大石世原線、宿下過台線、宿下和見線、横川上堰線、折橋下清水線、滝の前福平線、小菅陣場線、河原野田平線、下幡前の内線、下幡田平線、下幡宮ノ下線、赤塚妻木線、
	通過地域 31コ 20.7%	高橋門前通り、浜の宮通り、大宮通り、諏訪通り、上諏訪通り、大甕北通り、吹上通り、金丸通り、守機通り、高浜通り、中町通り、守木通り、幸町通り、宮下通り、土橋通り、香丸通り、大小路通り、泉町通り、若松通り、宮部通り、国分通り、星の宮通り、吾妻通り線、二反歩通り線、滑川浜通り、河原子街道、久慈浜本通り、田尻浜通り、中城通り、苗の平入口線、古坊池通り
位置関係	小中中央線、大中中央線、中通り、学園中央通り、大菅北線、大菅南線、大町公園通り	73 4.7%
地形	さくら通り、北の谷通り、谷向通り、浜街道、シーサイド道路、滑川丘通り	63 4.0%
規模・線形	ふとう坂、新坂通り、根道坂、よっころ坂、曲の手通り、五石通り、八間通り、八間道路	83 5.3%
沿道施設	運動公園通り、つくば公園通り(2)、千成通り、台南通り、川尻駅通り、駅前通り、鮎川学園通り、大学通り、二高通り、市民会館通り、日製正門通り、金港洞門通り、小口新道、天竜院入口線	15コ 10.0%
信仰	大雄院通り、お伊勢通り、参宮道路、八幡通り、長法寺通り、小森明神線	63 4.0%
生態(植栽・鳥)	けやき通り(2)、さくら通り、並木道、梅林通り、はなのき通り、さざんか通り、ゆりの木通り、一本松通り、横町柳通り、フラワーロード、バードライン(2)、四季の径(2)	15310.0%
願望	まごころ通り、平和坂、幸福の路、ふれあい道路(2)、常総ふれあい道路(2)	73 4.7%
産業	やきもの通り、産業道路、フルーツライン(2)	43 2.7%
交通目的	北守谷遊歩道、通勤道路、川口ショッピング通り	33 2.0%
イベント	国体通り、マラソン道路、アナハイム通り……姉妹関係ハミングロード、よかっぺ通り	53 3.3%
新旧歴史	歴史ロード(3)、土浦ニューウェイ	43 2.7%

村牧場を結ぶ線。

通過地域：比較的短い道路で、その道路の通っている地域名および地点名を道路名にしている。

例 泉町通り；石岡市泉町を通る一番重要な道路。その距離1.0kmであることから、泉町以外の地域では、ほとんど使われていない。

地形：道路の通過する地域の地形を表現したもの。根道、浜街道など。

位置関係：その地域に対する道路の相対的位置を表したもの。

規模・線形：道路の幅員、平面線形、縦断線形等の特徴を示したもの。よっころ坂や曲の手通りなど。

沿道施設：沿道の施設の名称を道路名に付けているもの。その施設に公園、駅、学校など公共性があり多くの人が分かりやすいものを取り上げている。

信仰：信仰の意味合いのある語彙や、寺社名を用いたもの。お伊勢通り、八幡通りなど。

生態(植栽、鳥)：沿道の樹木や花、鳥などより付けら

れているもの。

願望：人々の願い、気持ちから付けられた名前。

産業：地場産業によるもの。陶器で有名な笠間市のやきもの通り、産業道路など。

交通目的：遊歩道、通勤道路等交通目的を表現したものの。

イベント：道路上での祭や、スポーツ活動などを表現したもの。マラソン道路、よかっぺ通りなど。

新旧・歴史：時系列的な流れにより付けられたもの。

この分類では地名に約半数分類されたが、各々を詳しく分類すると様々な地名を用いていることがわかった。その違いは、その名称を利用する人々が目的地の方向を認知する情報を道路名に託すことが多かったことに由来していると考えられる。例えば、田村街道は谷和原村大字上長沼(街の中心部)から旧田村までを結ぶため、田村街道と今でも呼ばれている。さらに、その地域の人が日常的に使うのでそのまま地域名を取り、高橋門前通りや吾妻通り線と呼んでいる。

また小字や河川名と比較して、新しく建設された道路や、名前を新しく変更した道路は、沿道の施設から命名されたり、道路上でのイベント等多目的利用の内容を表したり、カタカナ英語を用いたりしているものが比較的多い。道路名にみられるこの特徴は、カタカナ英語に代表されるように、モダンでおしゃれなイメージが好まれる最近の傾向を反映したものと言えよう。

さらに、道路愛称名は、生活や産業と密着して捉えられている。この点は、他のものと違い、道路が人工造営物であることに由来していると考えられる。

4. 小字、河川名および道路愛称名の比較

今まで3つの名称について調べてきたが、ここでは、これら3つの名称を較べて、それぞれの特徴を明らかにした。表-4は、それらの名称の分類結果を対応させたものである。この表から、小字地名と河川名および道路愛称名の由来はよく似ていることがわかる。

しかし、表-2と表-3に示すように、小字と河川名では、集落と農耕地戸河川の結びつきの深さを反映して、地形と農耕に関するものが特に多く、一方、道路愛称名には、交通のための方向と現在位置に関する情報の重要性を反映して、目的地や通過地域や沿道の施設に関するものが多いのが特徴となっている。

このように、小字、河川名および道路愛称名の由来

表-4 小字、河川名および道路愛称名の由来

グループ	小字	河川名	道路愛称名
I	地形	土地、地形(地名)	地形
	植生	植生	生態(植栽)
	交通	交通目的	交通目的
	生産(耕地、産業)	農耕	産業
	集落	地名	地名
	信仰儀礼	信仰	信仰
	位置	位置関係	位置関係
	規模	形態・規模	規模・線形
II	新旧	新旧	新旧・歴史
	城館		沿道施設
III		流姿・水音	
IV			イベント、願望
V	水系		
	微気候 地表材料		

には、共通するものと、それぞれ独自のものが存在していることがわかった。そこで、その由来をグルーピングすると、次のような5つのグループに分けることができた。

I. 小字、河川名、道路愛称名に共通するグループ

このグループに属するものとしては、土地地形に関する名称、植生に関する名称、交通に関する名称、生産・農耕に関する名称、集落・地名に関する名称、信仰儀礼に関する名称、位置関係に関する名称、規模・形態に関する名称、新旧に関する名称があり、共通点の多いことがわかる。

これらは様々な時間的流れや、環境(土地、河川、道路など)の変化に対応できた普遍的な名前である。山や谷を読んで、その地域名となり河川名や道路名となってきたもの。地域や沿川、沿道のランドマークとなる木や植物を読み取り名づけられたもの。また、信仰儀礼やその拠点としての寺社が大事なランドマークとなっている。さらに、東西南北や前後左右などの位置関係、大小といった規模の違いなども道路や河川の認識に重要であったことがうかがえる。

II. 小字と道路愛称名に共通するグループ

イメージしやすかったり、ランドマークとなる人工の構築物が、小字と道路愛称名に共通して存在した。土地利用やそこに立つ建築物がその場所の認識や目的地の認識に重要であったことに由来した結果といえる。

III. 河川名だけに存在するグループ

これは河川の特徴ともいえるべき、流れに関するものである。河川は変動の激しい水の流れによって、様々

な形態に変化する。巴川や乙戸川といった流姿や水音に関する名称が存在する。

IV. 道路名だけに存在するグループ

これは都市内の街路名の特徴でありかつ最近の特徴ともいえる。よかつ通り、ハミングロード、マラソン道路等がこのグループに属する。祭やスポーツ等道路の新しい空間機能やイメージを表現したもので、カタカナ名がその特徴である。また、平和通りやふれあい道路など道路を通して幸せな社会を形成したいと行った願望を表現した名称も、道路愛称名の特徴である。今後、この種の愛称が増加するものと思われるが、その名称を普遍的になじませて行くためには、その新しい機能の継続性が問題となろう。

V. 小字だけに存在するグループ

土地というのは水や河川、気候によって、人の生活を左右する。これらの要素も、人がその地域で生活するために重要と考えられる環境情報であるため小字に表現されているが、河川名と道路愛称名には、水系、微気候、地表材料に関するものは存在しなかった。調査対象が茨城県内に限定され、サンプルが少なかったことがその一因とも考えられるが、小字が地面の区画であるのに対し、河川と道路が線状の空間であることから、道路が人工の造営物であることから、ミクロな自然的要因がそれらの代表としての名称に表現しにくかったことにも原因があったと考えられる。

5. 結語

本研究で得られた成果をまとめると以下のとおりである。

- (1)茨城県内110河川の名称由来は、土地・集落、地形(地名)、農耕、形態・規模、流姿・水音、交通目的、信仰、植生、位置関係、新旧の10項目に分類できた。また、150路線の道路愛称名の由来は、地名(目的地、発着地名、通過地域)、位置関係、地形、規模・線形、沿道施設、信仰、生態(植栽、鳥)、願望、産業、交通目的、イベント、新旧・歴史の12項目に大別できた。
- (2)小字、河川名および道路愛称名の由来を分類項目で比較すると、共通して現れる項目として、地形地名、地域地名、植生、交通、農耕・産業、信仰、位置関係、規模・形態、新旧の9項目が抽出できた。また、河川名に特徴的なものとして、流水の容態と水音に関する名称が、道路愛称名では、イベント等道路空間の多目的

利用を表す名称と願望を表現した名称が存在することがわかった。

(3)以上の分析結果より、小字、河川名および道路愛称名ともに、その由来に多くの共通性があることから、従来より地域情報を多く含むとされてきた小字に対して、河川と道路の名称にも地域生活環境に関する多くの情報が含まれていることがわかった。

以上のように、河川名および道路愛称名の多くは、地域の状況を表現したものであり、共通性があり、多くの人々にわかりやすく、イメージしやすい名称であるとともに、地域住民にとっても愛着の持てるものといえる。そこで、これらの名称から地域環境の特徴を引き出し、その地域づくりに有効な情報としていくのには、今後、これらの名称が用いられた歴史的な経緯についての詳細な調査が必要である。

最後に、この研究を進めるにあたって、データの提供にご協力いただいた茨城県土木部道路維持課および建設省関東地方建設局常陸工事事務所に謝意を表します。

参考文献

- 1) 楠原祐介, 溝手理太郎: 地名用語語源事典, 東京堂出版(1983)
- 2) 角川書店編: 角川日本地名大事典, 角川書店(1978)
- 3) 松崎岩夫: 長野県の地名とその由来, 信濃古代文化研究所(1991)
- 4) 都丸十九一: 地名のはなし, 煥乎堂(1987)
- 5) 都丸十九一: 続地名のはなし, 煥乎堂(1991)
- 6) B. M. フスキ: 人間のための街路, 鹿島出版(1981)
- 7) 篠原修: 比較街路学研究, 土木景観研究会「土木施設景観の文化的特性に関する研究」(1982)
- 8) 石川梯二: 東京の坂道, 新人物往来社(1971)
- 9) 横関英一: 江戸の坂東京の坂, 有峰書店(1970)
- 10) 横関英一: 続江戸の坂東京の坂, 有峰書店(1975)
- 11) 岡崎清: 古今東京の坂, 日本交通公社(1981)
- 12) 俵元昭: 東京の坂道物語1~7, 道路, No. 1~7(1976)
- 13) 村石利夫: 日本全河川ルーツ大辞典, 竹書房(1979)
- 14) 小穴喜一: 土と水から歴史を探る, 信濃毎日新聞社(1987)
- 15) 笹谷康之, 中岡浩, 小柳武和, 山形耕一: 小地名を用いた環境情報の研究, 第24回日本都市計画学会学術研究論文集, pp. 463~468(1989)
- 16) 笹谷康之: 人にやさしい道, 土木施工33. 4, PP. 19~22(1992)
- 17) 柳田邦男: 地名の研究, (1935) (角川文庫版p. 70より引用)